Express5800/CS500e

はじめにお読みください

Empowered by Innovation NEC

Startup Guide

スタートアップガイド

箱を開けてから本装置の初期設定を完了するまでの手順を説明します。このスタートアップガイドに従って作業してください。

856-126101-473-00　2007年5月　初版

856-126101-473-00

⚠ 安全に関するご注意

装置をセットアップする前に「ユーザーズガイド」の「使用上のご注意 -必ずお読みください-」をお読みの上、注意事項を守って正しくセットアップしてください。

⚠ 警　告

- ぬれた手で電源プラグの抜き差しをしないでください。感電するおそれがあります。
- 内蔵型オプションの取り付け・取り外しは電源コードをコンセントから抜いて行ってください。
- 雷が鳴り出したらケーブル類を含め装置に触らないでください。落雷による感電のおそれがあります。
- 「ユーザーズガイド」に記載されている内容を除き、分解・修理・改造を行わないでください。

⚠ 注　意

- 持ち運びの際は2人以上で装置の底面をしっかりと持って運んでください。
- 水、湿気、ほこり、油、煙の多い場所、また直射日光の当たる場所に設置しないでください。
- 装置に添付されている電源コード以外を使用しないでください。
- 電源コードは指定の電圧、コンセントに接続してください。
- 電源コードはタコ足配線にしないでください。

1 添付品を確認する

梱包箱を開け、添付品がそろっていることを確認してください。

- 本体
- 電源コード×1
- フロントベゼル
- セキュリティキー（フロントベゼルに貼り付けられています）
- Yケーブル(KB/MS用)
- ソフトウェアパッケージ一式（バックアップCD-ROM*1を含む）
- EXPRESSBUILDERパッケージ*2
- SystemGlobe DianaScope Additional Server Licence(1)（DianaScopeのライセンス）
- お客様登録申込書
- 保証書(本体梱包箱に貼り付けられています)
- 使用上のご注意
- スタートアップガイド(本書)

重要 添付のCD-ROMおよびインストール/初期導入設定用ディスクは、再セットアップの時に必要となりますので大切に保管しておいてください。

*1 バックアップCD-ROMの中には「ユーザーズガイド」や各種オンラインドキュメントも格納されています。ユーザーズガイドやオンラインドキュメントはAdobe Readerで閲覧できるPDFファイルです。

*2 EXPRESSBUILDERパッケージの内容についてはEXPRESSBUILDER内の添付品一覧を参照してください。

2 ユーザーズガイドを読む

ユーザーズガイドはバックアップCD-ROMの中に格納されています。ユーザーズガイドはAdobe Acrobat Readerで閲覧できるPDFファイルで、HTMLファイルから表示させることができます。

<バックアップCD-ROM>:/manual.html

ユーザーズガイドでは、本装置を安全に取り扱うための注意事項や*Startup Guide*では記載されていないセットアップに関する詳細な説明、運用やアップグレードに関する説明が記載されています。また、「故障かな？」と思ったときのトラブル回避の手段やサービスに関する情報も記載されています。本装置を取り扱う前にぜひお読みください。

ヒント PDFファイルを閲覧するためには、Adobe 日本語版が必要です。Adobe Readerはアドビ社のWebサイトから無償でダウンロードすることができます（http://www.adobe.co.jp）。

製本されたユーザーズガイドが必要な場合は、もよりの販売店、またはお買い求めの販売店にお問い合わせください。また、ユーザーズガイドは、NECのWebサイトからダウンロードすることができます（http://nec8.com/　→　[サポート情報]をクリックしてください）。

3 ラックを設置する

本体はEIA規格に適合した19型(インチ)ラックか、卓上に設置して使用します。ラックに設置する場合は、次の条件を守ってラックを設置してください。

重要 ラックの設置は必ず複数名で行ってください。

以下の環境条件を満たした場所
＜動作時＞
室内温度：10℃～35℃*
湿度：20%～80%
温度勾配：±10℃/時
気圧：749～1040hpa
＜休止時＞
室内温度：5℃～40℃*
湿度：10%～80%
温度勾配：±15℃/時
気圧：749～1040hpa

* 室内温度15℃～25℃の範囲が保てる場所での使用をお勧めします。

腐食性ガスの発生する環境で使用しない

前後1m以上、左右60cm以上、高さ40cm以上のスペースがとれる場所

複数のラックを設置するときは必ず連結させる

添付の電源コードが届く範囲にあるコンセントまたはUPS

AC100V、平行二極アース付きのコンセントまたはUPS
※ オプションにて200V対応可

スタビライザを取り付ける

水平でじょうぶな床の上

4 本体を取り付ける

本体をラックに取り付けます。ユーザーズガイドの2章を参照してください。

重要 ラックの設置や本体の取り付けは必ず複数名で行ってください。

1. 本体左右に取り付けられているスライド式のレールを取り外す。

装置運搬時の脱落防止のために、工場出荷時にスライドレールは左右ともに背面側と側面がテープで固定されています。ラックへ取り付ける前に、テープをはがしてください。

テープ

2. 本体前面にあるロック解除ボタンを押しながら、レールを持ってゆっくりと装置後方へスライドさせる。

ボタンを押すとロックが解除できます。

しばらくすると、「カチッ」とロックされます。本体側面にあるレリーズレバーを矢印の方向に引き、ロックを解除しながら本体から取り外す。

レリーズレバーを矢印方向に引きながらレールを引き出してください。

レールアセンブリを取り外すと、本体にはネジで固定されたインナーレールのみが付いた状態となります。

インナーレール

取り外したレールアセンブリは、レバーを押しながら矢印方向へ動かし、もとに戻してください。

レバー

レールアセンブリは、取り外したインナーレールに再度取り付けます。どちら側のインナーレールから取り外したものかわかるように印を付けるなどして区別してください。複数の本装置を設置する際もどの装置のどちら側のインナーレールから取り外したものがわかるように区別してください。

レバーやレールで指を挟まないよう十分注意してください。

3. レールアセンブリの四角い突起を、19インチラックの角穴に入れて取り付ける。

この時に「カチッ」と音がして、ロックされたことを確認してください。

上図は右側(前面)を示していますが、右側(背面)、左側(前面/背面)も同様に取り付けてください。もう一方のレールを取り付ける時、すでに取り付けているレールアセンブリと同じ高さに取り付けることを確認してください。

前後に多少のガタツキがありますが、製品に支障はありません。

レールアセンブリが確実にロックされて脱落しないことを確認してください。

4. 左右のレールアセンブリのスライドレールをロックされるまで引き出す。

ロック機構が確実にロックしている事を確認してください。

ロック機構

5. 2人以上で本装置をしっかりと持ってラックへ取り付ける。

本装置側面のインナーレールをラックに取り付けたレールアセンブリに確実に差し込んでからゆっくりと静かに押し込みます。

レールアセンブリ

装置側インナーレール

途中で本装置がロックされたら、側面にあるレリーズレバー(左右にあります)を手前または、奥に押しながらゆっくりと押し込みます。

レリーズレバー

完全に装置を押し込むと装置前面のロックがかかり装置を固定できます。

レバーやレールで指を挟まないよう十分注意してください。

差し込む時、インナーレールの両側をまっすぐ挿入してください。

設置時は、左右のツマミを持ってゆっくりと確認しながら取り付けてください。

初めての取り付けでは各機構部品がなじんでいないため押し込むときに強い摩擦を感じることがありますが、製品に支障はありません。

差し込みが不完全ですと、片側のレールが押し込み時に途中で止まることがあります。その場合一度装置をロックがかかるまで完全に手前に引き出してから、左右のロックが完全にかかったの確認してから、その後左右のロックを解除させて再び装置を押し込んでください。

6. 本装置を何度かラックから引き出したり、押し込んだりしてスライドの動作に問題がないことを確認する。

ラック内の他装置と隣接する位置に本装置を取り付ける際は、他装置と本装置の筐体が干渉していないことを確認してください。もし干渉している場合は、他装置と干渉しないよう調整してレールアセンブリを取り付け直してください。

スライドレール部分の動作を確認してください。スライドレールがラックのフレームに当たり、引き出せない場合は、スライドレールを取り付け直してください。

以上で完了です。

5 ケーブルを接続する

本体背面にLANケーブルを接続した後、添付の電源コードを接続します。ユーザーズガイドの2章を参照してください。

ハブやルータ(任意)

2 eth1

1 eth0

ハブやルータ(必須)

最後にコンセントへ(必須)

添付の電源コード

オプションの電源ユニットに添付の電源コード

重要 LANポート1を必ず運用時のネットワークに接続してください。初期導入時のセットアップでは、LANポート1(システムからはeth0ポートとして扱われます)を使用してセットアップを進めます。LANポート2(eth1)は初期導入のセットアップを完了後、Management Consoleの[システム]→[その他]→[ネットワーク]で設定できる拡張用ポートです。

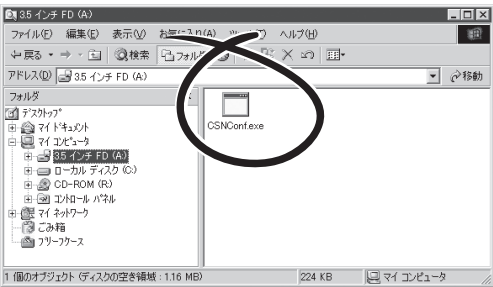
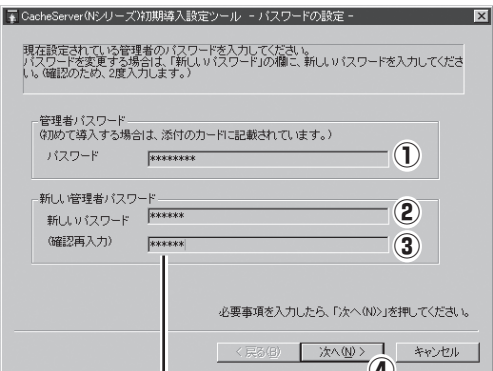
引き続きシステムのセットアップをします。裏面をご覧ください。 ➠

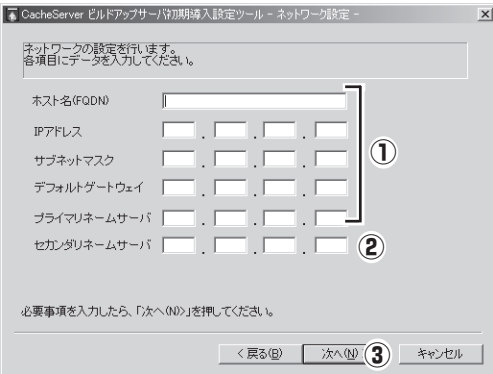
6 初期導入設定情報を作成する

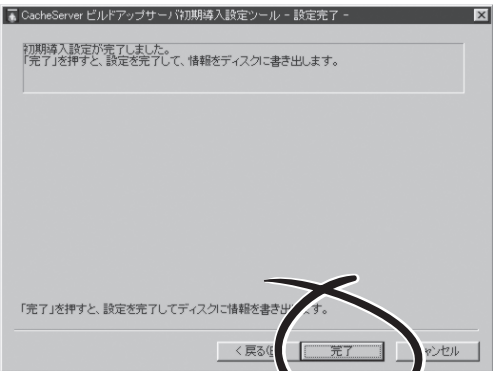
本装置をインターネット装置として運用するために最低限必要となる設定情報が保存されたディスクを作成します。添付の「インストール/初期導入設定用ディスク」とWindows XP/2000が動作するコンピュータを用意してください。詳しくはユーザーズガイドの3章を参照してください。

1. Windowsマシンを起動する。
2. フロッピーディスクドライブに添付の「インストール/初期導入設定用ディスク」をセットする。

   インストール/初期導入設定用ディスクはライトプロテクトされていない状態にしてください。
3. エクスプローラなどからフロッピーディスクドライブ内の「初期導入設定ツール(CSNConf.exe)」を起動する。

   初期導入設定ツールが起動します。ツールはウィザード形式で進みます。入力した内容が間違っている場合は先に進めません。警告メッセージに従って入力内容を確認・修正してください。
4. 管理PCから本装置にログインする際のパスワードを設定する。
   ① 初めて設定する場合は本装置に添付の「管理者用パスワード」に記載されたパスワードを入力する。
   ② adminでログインする場合のパスワードを設定する。
   ③ ②で入力したパスワードを入力してパスワードの確認をする。
   ④ [次へ]をクリックして次に進む。

   パスワードは画面に表示されない(「＊」で表示される)ため、タイプミスのないように注意する
5. ネットワークの設定をする。

   ここで設定する情報はLANポート1(システムからはeth0ポートとして扱われます)に対するものです。LANポート2(eth1)は初期導入のセットアップを完了後、Management Consoleの[システム]→[その他]→[ネットワーク]で設定できます。
   ① タイプミスのないように各値を入力する。
   ② セカンダリネームサーバが存在する場合のみ入力する。
   ③ [次へ]をクリックして次に進む。
6. [完了]をクリックする。

   入力した内容がインストール/初期導入設定用ディスクに書き込まれます。設定完了のメッセージが表示されるまでフロッピーディスクドライブから取り出さないでください。

   設定内容を変更したいときは、[戻る]をクリックしてください。
7. [OK]をクリックし、インストール/初期導入設定用ディスクをフロッピーディスクドライブから取り出す。

   インストール/初期導入設定用ディスクは再セットアップの際にも使用します。大切に保管してください。

7 初期導入設定情報をロードする

インストール/初期導入設定用ディスクの内容を本体にロードして初期セットアップをします。詳しくはユーザーズガイドの3章を参照してください。

1. 本装置のLANポート1コネクタ(eth0)とネットワーク環境として使用するHUBにLANケーブルが接続されていることを確認する。
2. ステップ6で作成したインストール/初期導入設定用ディスクがライトプロテクトされていないことを確認して、本体のフロッピーディスクドライブにセットする。
3. 本体の電源をONにする。

   セットアップを開始します。2～3分ほどで完了します。

LANポート2コネクタ(eth1)

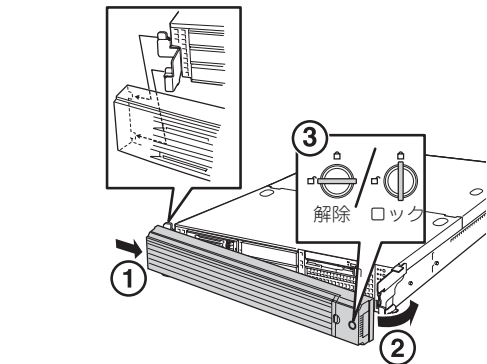
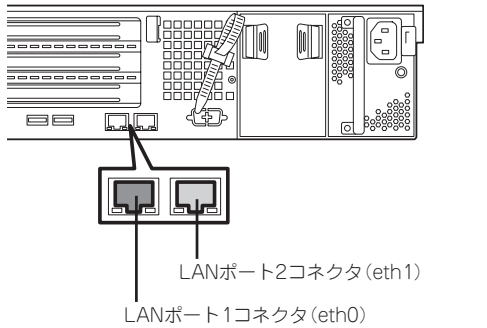
LANポート1コネクタ(eth0)

4. フロッピーディスクドライブのアクセスランプが消灯していることを確認して、インストール/初期導入設定用ディスクを取り出す。

   セットアップに失敗した場合はビープ音を鳴らした後、自動的に電源がOFF(POWERランプ消灯)になります。その場合は、Windowsの「メモ帳」などを使ってインストール/初期導入設定用ディスクに書き出されるログファイル「logging.txt」を開いてエラーメッセージを確認し、トラブルの解決を試みてください。

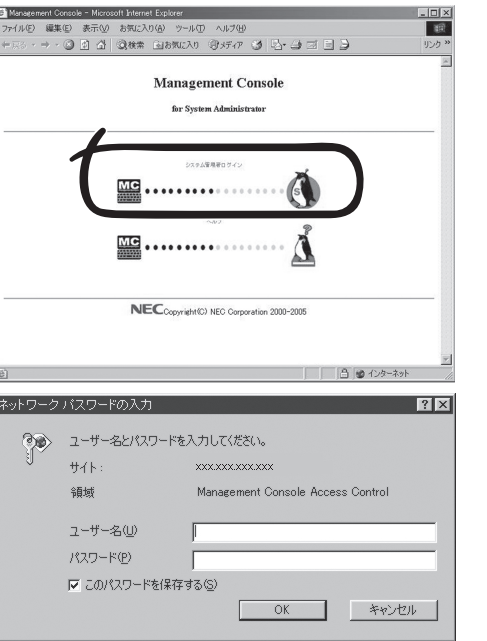
   エラーメッセージの意味については、ユーザーズガイドの3章「システムのセットアップ」－「セットアップに失敗した場合」を参照してください。それでも解決できない場合は保守サービス会社にお問い合わせください。
5. 添付のフロントベゼルを取り付けてセキュリティキーでロックする。

   セキュリティキーは大切に保管してください。

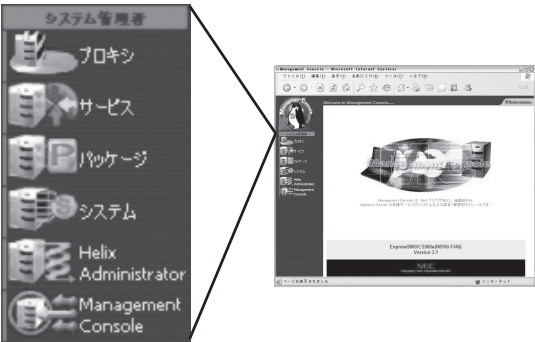
解除　ロック

8 システムにログインする

クライアントPCのWebブラウザからネットワークを介してシステムにログインします。詳しくはユーザーズガイドの4章を参照してください。

1. クライアントPC上でWebブラウザを起動する(Webブラウザは、Microsoft Internet Explorer 5.5 SP2(日本語版)・Microsoft Internet Explorer 6(日本語版)<推奨>・Netscape Communicator 7.0以降(日本語版)のいずれか)。
2. Webブラウザの設定を確認する(「プロキシを経由させない」・「キャッシュ機能を使用しない」)。
3. 「アドレス(または場所など)」に「https://<本装置に割り当てたIPアドレスまたはFQDN>:50453/」と入力する。
4. [システム管理者ログイン]をクリックする。
5. ユーザー名に「admin」、パスワードにはセットアップ時に指定した管理者パスワードを入力する。

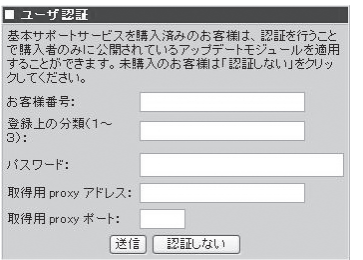
   管理者用のトップページが表示されます。

9 各種セットアップをしてシステムをアップデートする

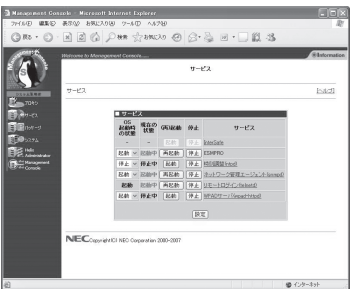
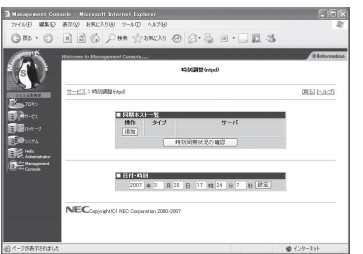
Webブラウザに表示された画面からさまざまなシステム設定ができます。詳しくはユーザーズガイドの4章を参照してください。

- プロキシサーバの状態確認や設定、フィルター設定、スケジュールダウンロード設定をする ―― プロキシ
- 時刻調整やSNMPを使った管理機能の設定、telnetログインやWPADサーバの設定をする ―― サービス
- アプリケーションのアップデートやソフトウェアのインストールをする ―― パッケージ
- システムのシャットダウン/リセットや状態表示、その他詳細設定をする ―― システム
- 別売のHelix Universal Server/Helix Universal Proxyに関するセットアップをする ―― Helix Administrator
- ログイン時のセキュリティ設定やアクセスを許可する待ち受けIPの制限をする ―― Management Console

本装置のシステムを最新の状態にアップデートします(購入時のシステムバージョンによってはアップデートをする必要がない場合もあります)。詳しくはユーザーズガイドの4章を参照してください。

1. システム管理者メニューの［パッケージ］をクリックする。
2. [オンラインアップデート]をクリックする。
3. [ユーザ認証]に必要な項目を入力し、[送信]をクリックする。

   基本サポートサービスを購入された場合のみ入力してください。サービスを購入していない場合は、何も入力せずに[認証しない]をクリックしてください。

   公開されているアップデートモジュールの一覧が表示されます。モジュールを選択して[適用]をクリックしてください。以降がメッセージに従って操作してください。

10 NTPの設定をする

キャッシュデータの有効期限の判定が正確に行えない場合がありますので、プロキシサーバ本体を含めたシステム全体の時刻同期、NTPの設定をお勧めします。Management Consoleのトップページから[サービス]をクリックします。

表示された画面より[時刻調整(ntpd)]をクリックすると、設定画面が表示されますので、設定を行います。

11 ESMPRO/ServerAgentの設定をする

本体の状態を監視するソフトウェア「ESMPRO/ServerAgent」がインストール済みです。ファンやマザーボード、ハードディスクドライブ、本体の温度などを監視するこのソフトウェアの設定(しきい値やイベントの通報先)をします。

詳しくは、バックアップCDにあるESMPRO/ServerAgentユーザーズガイドを参照してください。

<バックアップCD-ROM>:/nec/doc/esmpro.sa/users_v42.pdf (SATA HDD単体接続以外用)

接続に使用するクライアントマシンによっては罫線が文字化けすることがありますが、それぞれの機能は問題なく動作します。

12 管理コンピュータのセットアップをする

本装置をネットワーク上から管理・保守するソフトウェアを管理コンピュータにインストールします。ソフトウェアは、本体に添付の「EXPRESSBUILDER (SE) CD-ROM」に含まれています。管理コンピュータのCD-ROMドライブに「EXPRESSBUILDER (SE) CD-ROM」をセットすると表示される「マスターコントロールメニュー」からそれぞれインストールすることができます。詳しくはユーザーズガイドの2章または5章を参照してください。

以上で完了です。